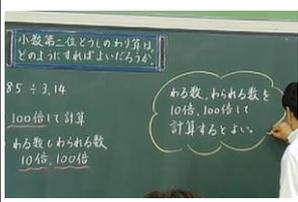
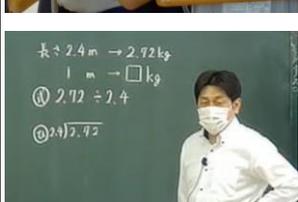
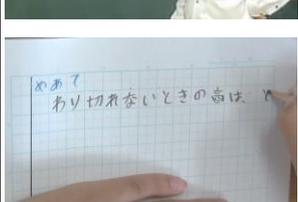


本時の授業における課題1 第5学年(6/11)・第6学年(O/O)

児童の学ぶ力を発揮させるための教師の手立て	主な学習活動(第5学年)		学習活動の様子	課題(指導助言者からの指導も含む)
	0 予習			<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月10日(土)に、PTA 研修会を行い、予習型授業について知っていただく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ○ ロイロノートを使って既習事項を踏まえながら考えたことを説明できているか確認できるようにする。→発表の練習は行わなかった(第6時であり、発表のスキルが十分であったため)。 ○ ノートを大きな画面で示しながら予習してきたことを説明し合い、質疑応答を行うことで、全員で課題解決ができるようにする。 ○ 相違点については「○○さんとちょっと違って」、同様の考えについては「○○さんと似ている」など、つなぎ言葉を活用できるようにする。 ○ 「いいね」「なるほど」などの言葉を使って「頑張ったな。」と思えるような声掛けをしていく。 ○ まとめ言葉は、まずは一人でまとめる。教師は子どもの言葉に耳を傾け、出てきた言葉を使って行う。 ○ デジタルドリル navimaに取り組みさせる【新】ことで、自分の課題を把握し、克服させる。 ○ navima で解く計算はノートに書いて行っても、書かずに行ってもよいが、計算の跡を残すことで間違いに気づきやすいことなど、ノートの有用性は指導する。 ○ navimaを行っている様子を観察することで習熟の度合いを形式的に評価する。習熟の度合いが低い場合は、個別に教えた。 ○ ipad使わない場面での収納について指導を行う。→集中していたため行わなかった。 ○ 動画を提示することで、「予習してみたい、次の時間も楽しみたい、がんばりたい」という学習への動機付けを図る。→動機付けは試行の課題で十分であったため、行わなかった。 ○ ノートをロイロノートに撮影したり、「予習してみたいこと」をロイロノートに自撮りすることで、予習につなげるようにする。→行わなかった。 ○ manavi 名人チェック(自己の学びのメタ認知)を Google Forms で行う→授業後行った。 	<p>1 予習してきたことを説明する動画を撮り、考えたことを伝える準備をする。→行わず、2の大きな画面での発言に移った</p> <p>2 自分の考えを説明する。ロイロノートを使って発表する。 自分の考えと友達のことを比べながら聞く。</p> <p>3 学習のまとめを行う。</p> <div data-bbox="464 920 762 1055" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 整数になるように、10倍、100倍して計算をすればよい。</p> </div> <p>4 navima の問題に取り組む。 (1) 分からない問題については、児童どうして教え合う。 (2) 場合によっては、教師の一斉指導を受けて考え直す。</p> <p>5 次の時の課題をつかむ。</p> <div data-bbox="464 1570 762 1704" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 長さ 2.4m の鉄の棒の重さ 2.72 kg。1m の重さは? $2.72 \div 2.4 = 1, 1333 \dots$</p> </div> <p>○ 実際に計算させ、割り切れないことを実感させた。</p> <p>6 次の時めあて</p> <div data-bbox="464 1816 762 1951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 商がわり切れない時はどのようにすればよいのだろうか。</p> </div>	<p>展開5分</p>    <p>終末5分</p>  <p>習熟25分</p>   <p>導入15分</p>   	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育の情報化3つの視点の明確化が必要である。 (1) 教科指導における ICT 活用 (2) 情報教育 (3) 校務の情報化 ○ 習得した概念の定着のために、考えの共通点や相違点に着目するだけではなく、習得した概念を「どうして」、「なぜ」活用したのか理由を述べさせる必要がある(学び方名人カードに付け加える)。 ○ 数学的な見方・考え方＝問題に着目し、習得した概念をどのように、なぜ使うのかを「考えさせる」授業の構築が必要である。 ○ 「数学的活動」を確認し、子どもが目標を達成するために、どのような活動が考えられるか、検討する必要がある。 ○ 予習の必要性を実感させる授業の工夫を今後も継続させる必要がある。 ○ 子どもが教師のような役割(ガイド役)を担い、子どもたちによる授業の展開を考えていきたい(複式学級においては特に有効)。 ○ navima の問題に取り組む際の見届けとともに、更なる定着のための子どもどうしの学び合いや、教師による全体的な指導が必要である。 ○ 授業で、「どのような力を身に付けさせたいか」を更に意識していく必要がある。 ○ 子どもが子どもに、子どもが教師に分らないことを質問するようになってきている(学び方名人カードより)。 ○ 子どもの問いが、単元を通して連続的に生じるような授業の工夫が必要(学校と家庭のつながり＝ipad 持ち帰りの学習の工夫)である。 ○ 予習型授業の種類の明確化が必要である。 (1) 探究型(本校の目指すもの)学校の学習で生まれた新たな問いを家庭でも探究していく形。 (2) 反転学習型 (3) 補習・定着型 (4) 振り返り型 ○ 中学校にも「予習型」を紹介し、小・中連携を通じた取組が必要である。 	

本時の授業における成果

展開の過程における明日の授業の目標(子ども自身が抱える学び方に関する課題) 「次の授業で一番がんばりたい学び方を教えてください」		6/14- 6/17	6/18- 6/28
1	「〇〇さんとちがって」「ほかに」「でも」「だけど」と言って、友達の考えと違うことを発言したい	19	12
2	「どうして…」「おたずね」「どういうこと?」と言って質問したい	6	2
3	「それは」と言って、自分の考えを付け足す発言をしたい	3	4
4	「〇〇さんと似てて」と言って、友達の考えと似ている考えを発言したい	3	8
5	「しかも」「それに」と言って、友達の考えに、自分の考えを付け足す発言をしたい	1	3
6	「うん、うん」とうなずきたい	0	1

○ 展開の過程において、相違点や共通点について着目しながら課題解決を行う子どもの姿が見られるようになった。

習熟の過程における児童の学び方の自己評価	6/14- 6/17	6/18- 6/28	差異	F検定 (P 値 <0.05)
navimaをしている時、友達に分からないことを質問することができた。	1.25	1.433333	0.183333	0.009773
navimaをしている時、友達に、教えることができた。	1.375	1.433333	0.058333	0.295703
先生が、黒板に書いたこと以外のことを、ノートに書いたり、ロイロノートに自撮りすることができた。	1.8125	2	0.1875	0.273559

(6/14-17 までを前期, 6/18-6/28 までを後期とし, 前期と後期における数値の有意差をF検定で見出した)

○ 習熟の過程 (navima を行う際) において、友達に質問しながら課題解決を行う子どもの姿が見られるようになった。

習熟の過程における明日の授業の目標(子ども自身が抱える学び方に関する課題) 「次の授業で一番がんばりたい学び方を教えてください」		6/14- 6/17	6/18- 6/28
1	navimaをしている時、友達に教えたい	15	12
2	navimaをしている時、友達に分からないことを質問したい	11	13
3	先生が、黒板に書いたこと以外のことを、ノートに書いたり、ロイロノートに自撮りしたい。	6	5

○ 習熟の過程における学び合いにおける高い意欲が見られる。今後も意欲を持続していける工夫をする必要がある。